清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）

≪長野県山形村≫(やまがたむら)

第１６集

（長野県道 1 号線～508 号線）

NO.106　明科から戸倉を県道 51 号と 55 号で走る

（長野県道 51 号走破）（長野県道 55 走破）（長野県道 329 号走破）

NO.107　大峰高原の七色カエデと県道 274 号線

（長野県道 274 号走破）

NO.108　中沢峠（旧長谷村）から駒ケ根市街へ（県道 49 号線）

（長野県道 49 号走破）

NO.109　路線変更された県道65号線（上田丸子線）を走る

（長野県道 65 号走破）

NO.110　北信五岳(飯綱・戸隠・黒姫・妙高・斑尾)道路とワイナリー

（北信五岳道路走破）（長野県道 363 号）（長野県道 364 号）

NO.111　裏木曽街道（岐阜県）から真弓峠を目指す（県道 486 号）

（長野県道/岐阜県道 486 号走破）

NO.112　旧豊科町周辺の県道と拾ケ堰

（長野県道 57 号走破）（長野県道 310 号走破）（長野県道 314 号走破）（長野県道 316 号走破）

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１０６

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.10.1

明科から戸倉を県道 51 号と 55 号で走る

澤田　繁　著

（長野県道 51 号走破）（長野県道 55 号走破）（長野県道 329 号走破）

2024.10.1 安曇野インターで降り、光橋を通り国道 19 号線に出て明科（安曇野市）を目指す。明科駅手前の塔の原交差点を左折して県道 51 号線（大町明科線）に入る。すぐに犀川に架かる犀川橋を渡り 4km 程行くと池田町に入る。明科から池田市街までは、田んぼと住宅が道路わきに現れる道で、刈り取った後の稲株が見えた。池田町の中心手前 5km 程にある渋田見交差点で県道 329 号線（原木戸安曇追分停車場線）との三差路に到達した。2024.1.5 の日に穂高神社に初詣に行き、その後安曇追分駅に寄り、そこから県道 329 号線を走り（県道 329 号線走破)、渋田見交差点から県道 51 号線を終点まで行き、さらに、県道 55 号線に乗り換えて、県道 55 号線を国道 403 号交点まで走り、西条経由で帰宅した。今回（2024.10.1）は、既に本道は走っているので、本道から外れてもいい旅なので、写真も忘れず撮って走りました。

渋田見交差点から 400m 先に道案内がある「北アルプス展望美術館」に寄りました。私の目的は、信州サーモンですが、まずは美術館前の階段を登り入館しました。「安曇野キルト公募展」が開催されていたので最初に見ましたが、その製作の根気に圧倒されました。となりの食堂「臣喰館」で信州サーモンの丼を食べました。その前に、つけものが自由にとってもよかったので、とってきて食べましたが非常においしかった。

県道 51 号線に戻り、北上するとすぐ右に「大雪渓酒造」があり、その後徐々に池田市街に入っていく、池田町の市街地を過ぎたところの「池田五丁目」の信号を右折すると、次回作の 274 号線（終点）に入るが、信号を直進、田んぼがつづく道になり、池田町から大町市に入るとすぐ「仁科神明宮」の道案内があり右折して神社に向かった。国宝「仁科神明宮」に着きました。何回目かのお詣りですが、新たな気持ちで手を清め本殿に向かいました。本殿前でお詣りをして、御朱印をもらい車に戻りました。国宝指定は、中門と本殿の建物と説明あり、右写真が本殿、左写真は御神木の杉（根元）です。

仁科神明宮一の鳥居をくぐり右折して、山沿いの道を走って、県道 55 号線に出ようと思いました。走って行くと街道筋のような建物もあり、神社も多く、道祖神もあった。途中に柱状の案内があり、「中部北陸自然歩道」と書いてありました。塩の文字がちらっと見えたので「塩の道」（千国（ちくに）街道）ではないかと思いました（家に帰り確認しました）。大黒の写真をとって間もなく街道も終わり県道 55 号線に到着しました。

県道 51 号線は、大町市に入っても田んぼが道脇にある道がつづき、街並みが始まり出して 600m 程で旭町交差点に到着する（県道 51 号線走破）。そこから右折して県道 55 号線（大町麻績インター千曲線）に入る。県道 55 号線は 600m 先を右折して東に進む。仁科神明宮からの千国街道との交点を通り、峠（標高 920m）に向かって山道を登っていくと、トンネルがありそこを抜けると峠を越えたようだ。ここから犀川に向かって下って行く道となり、八坂小中学校がある八坂の中心地までは標高約 200m を下る。ここの中心地に「信州金熊温泉明日香荘」があり、前に食事（そばとおやきのセットが売り切れでそばのみを食べた記憶がある）をした。途中寄り道をし、「唐花見湿原」を見に行ったが、だいぶ歩かないとだめそうなのでやめて高原野菜が多く作られている場所を見ながら、県道 55 号に戻るように、道を探しながら走って見ました。

八坂の中心から、県道 55 号線は国道 19 号線の「山清路」に向かう、下り道は続く、道路脇に「八坂の大滝」を、車を止めて見るスペースがあるが、その手前の旧道を100m行った橋の上から眺めました。次回作の県道 274 号（始点）との交点を過ぎ、トンネル工事の前に着いた。この工事「国道 19 号線の防災工事」の一部で、平成8年点検調査で、新山清路橋付近（山清路）で極悪判定のA判定評価から始まっている。南から県道 55 号交点までは、ほぼ完成（写真）、北側の第二トンネルの本坑工事が 11 月から始まると工事の人に聞いた。その先は、2 年前に犀川にかかる橋の設計が発注されたという進行状況のようだ。山清路に着き、国道 19 号線に入る。「山清路」は蛇行した深い渓谷の名勝であるが、道としても 3 つの橋が順次建設されているように交通の難所でもある。中央の山清路橋は、昭和 9 年に建設され国道 19 号線の道路であったが 1960 年後半に新山清路橋が完成して国道 19 号線が今のルートになった。学生の頃バイクで古い 19 号線（トンネルと山清路橋）を通ったような気がする。いつ旧道が通れなくなったかはわからないが、山清路大橋が出来る 2020 年 12 月までは、県道 55 号線が山清路橋を渡り旧国道 19 号線とは分岐して、差切峡（さしきりきょう）へ向かっていたので山清路橋（現在は通れない）は、何度か通った。山清路大橋（写真）を通り、麻績川（おみかわ）沿いの渓谷を登る道になる。山清路（犀川と麻績川の交流点）の標高が 480m から、差切峡の上からの入口である、国道 403 号線との交点の標高が 570m である。県道 55 号線としては、それほど急な登りではなかったが、曲がりくねった細い道であった。渓谷はかなりの深い所もあり、道路から下に降りる歩道もあったが、登り降りに自信がないので、今までに下まで行った事がない場所だ。国道 403 号線との交点に到達した。県道 55 号線は国道 403 号線と重複し北上し、麻績インター（この国道区間結構利用している、篠ノ井線と平行しており、耕作地・集落・山際が交互に現れるに路線）に向かう、この日は、反対の筑北スマートインターから帰宅した。

2020.8.29 国道 18 号線で屋代から、戸倉上山田温泉入口交差点に来ました。ここから県道 498 号線に入り千曲川を渡り、中央通りと交わり、左折し中央通りを通り、県道 55 号線との交点の三差路に着いた。途中、パン屋「ラ・パン・エレガント」に寄り、パンを買って食べた。この付近は娘が、家を買う前に、アパート暮らしをしていた場所なので、何度か訪れ、付近も散策した場所でもある。三差路の交差点から県道 55 号線の佐良志奈神社前交差点までは、NO.99（第 15 集）の県道 77 号線との重複している区間であり、佐良志奈神社前から終点の戸倉までは、2021.2.1 に走った記録がある他、何回も走っています。この日は、左折し女沢橋信号を右折し、坂上トンネル（四十八曲峠）に向かって登っていく道になった。信号から 3km は、扇状地に集落やりんご畑などの耕作地のある道で、以降、山に入り、中腹を走って、坂上トンネルまで到達した。前に走った時には、整備工事（曲がりが多いので、何か所かショートカットと拡張）が複数個所で行われていたが、きれいに整備されていた。通常は、女沢橋交差点から 200m 先を左折し、上山田小学校のところから右折し、県道 55 号線までほぼ直線の道を通ると早い。

坂上トンネルを抜けて、千曲市から筑北村に入りました。トンネルを抜けてすぐ大きいＳ字カーブを下るが、その後は、ほぼ直線的な下りの道であった。旧坂井村の中心であった筑北小学校横まで来て、県道 12 号線との交点に出ました。ここからは、県道 12 号線（NO61 に掲載）と重複して本町交差点まで進む、途中長野道の下をくぐると麻績村に入る。県道 55 号線は、本町交差点からは、聖高原前交差点を通り、麻績インターまでは国道 403 号線と重複している。この日は、麻績インターから帰宅した（県道 55 号線走破）。

麻績インターから青木村経由で上田佐久方面にいく（県道 12 号線）場合とか、坂上トンネルから上山田方面に行く（県道 55 号線）場合には、聖高原駅前交差点の先 80m を右折して篠ノ井線に沿って行き、そのまま踏切を渡って行くと、県道 12 号線と県道 55 号線に出るので、この道を多く利用している。

【付録】戸倉上山田温泉

戸倉上山田温泉は、千曲川左岸の**戸倉温泉**（地図参照）と**上山田温泉**および右岸の**新戸倉温泉**を総称して信州戸倉上山田温泉と呼ぶ。明治中期に千曲川の河川敷に戸倉温泉、上山田温泉が相次いで開湯され、善光寺参りの精進落としの湯として賑わった。例年、千曲川の水害に見舞われて一時は移転を余儀なくされたが、明治末期から大正時代にかけて堤防や温泉施設の整備が進み、大正後期には現在の温泉街・繁華街が成立した。戦後間もないころは傷病兵の湯治場となり、最盛期の後期には企業の団体客など年間 130 万人以上の観光客が訪れ、300 人以上の芸妓が在籍した。

http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm 歳時記ホームはこちら

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１０７

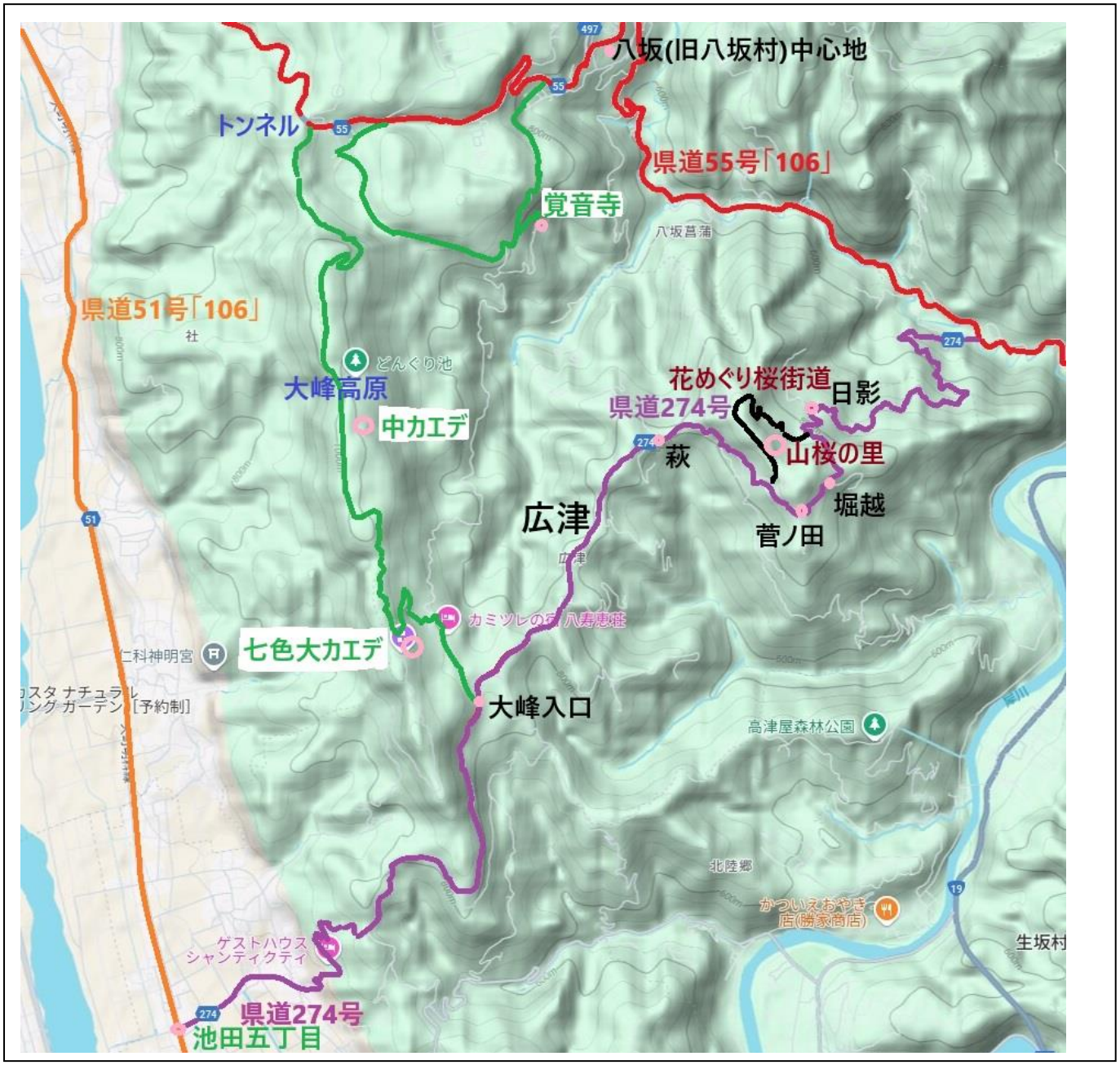
≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.10.8

大峰高原の七色カエデと県道 274 号線

澤田　繁　著

（長野県道 274 号走破）

2021.4.20 明科から県道 51 号線で、池田町の池田五丁目の交差点を右折すると、県道 274 号線（宇留賀池田線）が始まる。平の耕作地を 1.2km 程走ると山に入る。バス停大峰入口までは、センターラインのある 2 車線の道路で山腹を走っている。大峰入口を過ぎてしばらくして、センターラインがなくなるが、池田町**萩**の表示があるところまでは 2 車線は確保されていた。また尾根道を走る事がおおくなり、山腹でも尾根の近



くを走ようになった。山桜がきれいな場所がこの辺りにあるみたいなので、少し周辺を回ってみました。**高照の山桜の里**の表示を見つけ、少し桜を楽しみました。萩からは、道が狭くなり、堀越(旧大日向村)を越えると、１車線が多くなり、すれ違いも出来ない所が多くなり日影(旧宇留賀村)少し手前からは、山腹を下っていくカーブの多い道であった。田んぼが見えてすぐに県道 55 号線との交点（県道 274 号線の始点でもある）に出た（県道 274 号線走破)。

県道 274 号線は、旧広津村をほとんど走る道であるが、沿線には集落はなかった。沿線から降りた所にあるようだ。旧広津村は、明治 8 年に北山村・宇留賀村・大日向村が一緒になって出来た村で、昭和 32 年（1957 年）に池田町・八坂村・生坂村に、それぞれ解体分割された。

2016.11.1 八坂の中心地に行き、足を延ばして「覚音寺」に行って見ました。狭い下りの山道を下って行くとありました。「覚音寺」に重要文化財の多聞天立像・千手観音立像・持国天立像の 3 体がおり、古くからのお寺のようだ。「覚音寺」は、寺伝によれば、かつては、僧坊 12 を有する大寺であった。本寺は、創建年代を明らかにしないが、平安時代中期を遡る（さかのぼる）と考えられる。住職がいたので、大分長いこと話をしましたが、内容は憶えていない。違う道を登り、県道 55 号線に出た。大町方面に行き、相川トンネル手前（標高 920m）に＜2km 大峰高原＞の案内があり、そこを左折した。

ここから高原までの 2km は、標高差 100m の緩やかな登りの 1.5 車線の道で、登りきった所から「大峰高原」になる。高原の尾根の道は、3km 程あり、快適なドライブでした。高原には、「白樺の森マレットゴルフ場」・「白樺の森キャンプ場」・「どんぐりの池」の楽しむ所があった。目的の「七色カエデ」を見にきたので、葉のいろづきを気にしながら運転していると、駐車場に着いた。尾根にある駐車場からすぐ下にありました。大きなカエデの木は、見えるだけで数本あり、近づいたり、離れたりして楽しみました。

10 月上旬から色づき始め、中旬から下旬には、緑色に赤や黄色・オレンジ色など、一本の木の枝が様々な色彩に染め上げられ、美しいグラデーションを生み出し、紅葉が終わり頃は一面の赤になる。状態が気になったが、なんとか 7 色見る事が出来た。車に戻り「大カエデ」方面に走り、車から「大カエデ（樹齢 250 年）」を眺めて高原を後にし、県道 274 号線に出て、池田方面から帰宅した。

歳時記ホームはこちら http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１０８

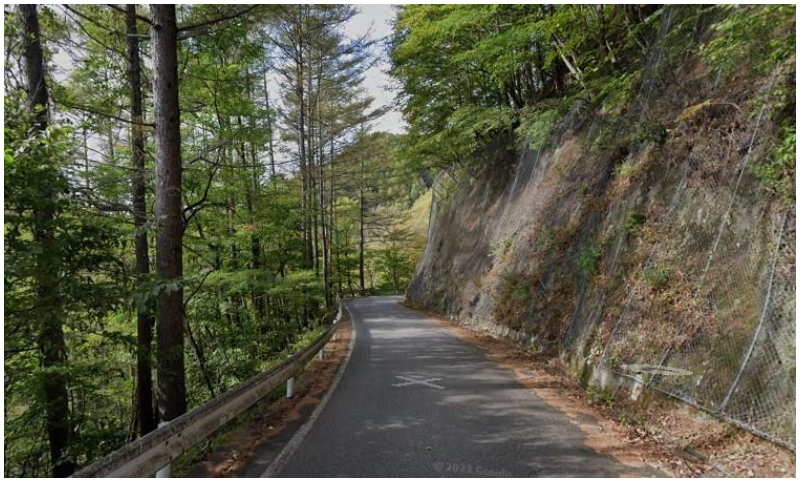
≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2024.10.12

中沢峠（旧長谷村）から駒ケ根市街へ（県道 49 号線）

澤田　繁　著

（長野県道 49 号走破）

2021.11.30 伊北インターで降り高遠を通り、長谷地区（旧長谷村）に行きました。県道 212 号（第 12 集、NO.82）を走り、国道 152 号線を南下した。国道 152 号線は、谷間をしばらく進み、その後山を登り「中沢峠」に着く、ここを右折すれば、駒ケ根市方面に行き、直進（国道 152 号線）すれば「分杭(ぶんぐい)峠」を越え大鹿村に行く。



右折し、県道 49 号線（駒ケ根長谷線）に入り、すぐ駒ケ根市になった。峠付近は標高 1300m で、県道 49 号線が渡る天竜川の標高は 600m 弱なので、中沢峠から天竜川まで 11km を、標高差 700m を下る道である。新宮川に沿って谷を下る道だが、峠からしばらくは、川等の存在は全くなく、ただ山腹に張り付くような道であった。峠から 3km 程走って橋を渡ったところから、川が見えて、川沿いの道が感じられた。それと同時に道幅も広くなり、センターラインの無い 2 車線になった。更に 2km 程行くと、センターラインが引かれた 2 車線になった。峠から６～７ｋｍの所に、県道 210 号線との分岐点があり、そこからは県道 210 号線としばらく重複して走る。「中沢の花桃」として、県道 210 号線と県道 49 号線の沿線には、あちこちに花桃が植わっている。駒ケ根市は昭和 29 年に赤穂町・宮田町・中沢村・伊那村が合併して出来た（昭和 31 年に宮田村が分裂）市で、中沢地区は旧中沢村になる。

天竜川を渡り、河岸段丘を登ると市街地に入り、国道 153 号線のバイパスを直進し、飯田線の踏切をわたり国道 153 号線の本町交差点（県道 49 号線始点）に到着した（県道 49 号線走破）。この日は、県道 75 号線を通り、駒ケ根インターで高速にのり、伊那インターで降り、権平峠から国道 19 号線に出て帰宅した。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　NO　道１０９

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.10.15
路線変更された県道65号線（上田丸子線）を走る

澤田　繁　著

（長野県道 65 号線走破）

2024.10.15 自宅から国道 19 号線と 254 号線の交点である平瀬口交差点から、国道 254 号線に入り、三才山トンネルを抜け、荻窪交差点から県道 65 号線（上田丸子線）に、すぐに平井寺トンネルを抜けました。平井寺トンネルは、1985 年（昭和 63 年）に開通し、2018 年までは有料でした。ここが出来るまでは、上田から三才山トンネルへは、丸子の街まで行き戻って来る形で遠回りするルートでした。

トンネルを抜けると、塩田平に出る。この周辺の山は、松茸の産地であるとともに、**「松茸小屋」**が多数オープンして、各店・趣向をこらした料理をし、競っている。

下之郷新田の信号に到達する前に、**「生島足島神社」**と**「信州夢殿」**に寄った。「生島足島神社」は、生島(いくしま)大神（万物を生み育て生命力を与える神）と足島(たるしま)大神（国中を満ち足らしめる神）の主祭神からなる神社で、「信州夢殿」は、昭和時代に建立された、奈良法隆寺夢殿を完全二分の一に縮小して建てられた建物。横には長福寺があり、「銅造菩薩立像」（国重要文化財）が置かれている。ここにある駐車場に車を止めて、近くのそば屋さんで食事をした。

下之郷新田交差点からは、赤坂交差点まで、しばらく 2 路線あったが、2020 年 12 月に、1 路線になった。市道に変更された旧 65 号線（2021.8.17 に通る）は、上田市街にいくには、こちらの方が早い。下之郷新田交差点を直進して、長野大学・上田女子短期大学が近くにある交差点を通り、立体交差された旧 65 号線の上を越え、下小島の交差点から 4 車線道路になった。宮島交差点で国道 143 号線と交わる。国道 143 号線は、前は 65 号線とともに上田市街に向かっていたのが、宮島交差点を直角に曲がり、国道 18 号のバイパスまでになった。県道 65 号は、宮島交差点を右折し、2 車線の店屋が多い道路になる。赤坂交差点に着いた。手前の道路標識にも路線変更の痕跡を発見した、松本の下にかすかに 65 の文字が見えた。

赤坂交差点を左折すると、600m 程は県道 77 号線（第 15 集、NO.99）と重複しており、分岐された後、千曲川に架かる「古舟橋」を渡り、しなの鉄道・北陸新幹線の下を通り、常盤城(ときわぎ)3 丁目路交点から上田城跡に寄り道をした。この交差点を右折し、祝町大通りを走る。案内に市営野球場・各種運動場がある所を左折し坂を登ると、駐車場に到達する。この日は、一つ前を左折してしまったが行きつきました。城に行く前に、昔なつかしいテニスコート（西）を見に行きました。クレーコートのままでなにも変わっていなかった。次に市営野球場をちらっと見ました。昔からのスタンドも残っていて、前から気になる存在でした。いろいろの野球場の説明文の横に、新しい看板が新設されていました。内容は、＜2022 年（令和 4 年)、野球の聖地・名所 150 選に、この上田城跡(じょうせき)公園野球場が選ばれました。日本に野球が伝わってから 150 周年の節目の年に、かって堀跡を活用し建設された歴史的背景や、これまでに日本野球の歴史を支えてきた功績が評価され選出されたものです。＞とのことです。野球場のあるところが裏門にあたるようで、ここから城内に入りました。本丸跡を中心に、反時計まわりに、ぐるっと一周をした。上田城がどのように変貌されてきたのかは、勉強不足でよくわからない。ただ 1583 年に築城し 1601 年に破却された。その後少し再建されたが、1874 年本丸に 7 棟あった櫓(やぐら)は、一つ（現：西櫓）を残して解体（２棟は移築）された。1949 年移築されていた 2 棟を城内に移築復元された。城内に入り、内堀が現れ、堀が切れた所から、西櫓を見ながら進み、本丸跡を見てから、南櫓（写真左）と北櫓をつなぐ東虎口櫓門（写真右）をくぐった。ここまでで私としては、かなり歩いた。城内は思った以上に広く、まだ半分まではいかない。内堀にそってもう少し進んだ所（東のテニスコートそば）で大休憩をした。休憩の後、堀横に植えられた桜の名所を見ながら歩き、なんとか駐車場にたどり着いた。

常盤城 3 丁目の交差点まで戻り。残りの県道 65 号線を 500m 先の常盤城 4 丁目の交差点まで走った（県道 65 号走破)。この交差点国道 18 号との交点でもあり、この日は、左折し国道 18 号線で長野方面に向かい、千曲市の孫の家にお土産を届けて、姨捨スマートインターから帰宅した。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１１０

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.10.22

北信五岳(飯綱・戸隠・黒姫・妙高・斑尾)道路とワイナリー

澤田　繁　著

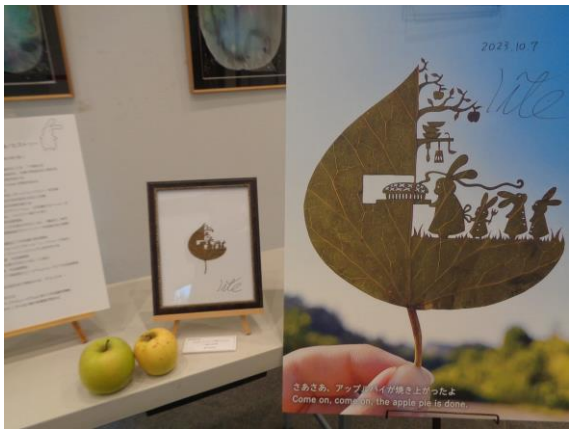
（北信五岳道路走破）（長野県道 363 号走破）（長野県道 364 号走破）

2024. 10. 22 中野インターで降り、県道 29 号線を西に、千曲川に架かる立ケ花(たてがはな)橋を渡り、国道 117 号線を横切ると、北信五岳道路が始まる。蟹沢トンネルを抜けたところに、信濃町に行くルートと南の豊野に行くルートに分かれる三差路があり、2021. 4. 27 は南の豊野ルートを県道 60 号線まで走ったので、この日は右折して、信濃町まで足を延ばす事にした。河岸段丘を登っていくと、りんご畑が現れ出し丘に出た。県道 362 号

線との交点付近までは、りんご畑がほとんどで、時折ぶどう畑があった。362 号線と 60 号線付近の平地には田んぼもあり、いろいろな農作物がありそうでした。362 号線交点から 1㎞のところに「サンクゼール」の案内があり（今回は見過ごし引き返して来ました）そこを曲がり山道の尾根を登って行くと、「サンクゼールワイナリー」があった。途中に「いいづなアップルミュージアム」があったので、立ち寄ったところ、りんご

アート博覧会をやっていたので見学した。又、葉っぱ切り絵の作家の作品（右写真）も展示されていた。

「サンクゼールワイナリー」には、建物が多く、ショップに入ると、ワインの他いろいろ売っていた。おなかがすいていたので、レストランの場所を聞いて、車で移動しレストランに入った。レストランで昼食コースとノンアルコールの赤ワインをいただき、景色の良い所でゆっくり食事が出来ました。



北信五岳道路に戻り、県道 60 号線を突っ切り、しばらくして山道に入りました。一山を越えると、信濃町に入りました。左に、しなの鉄道の戸草トンネルと旧戸草トンネルが見える所を通り、県道 364 号線と重複して走り、終点（国道 18 号線の交点でもあり、北信五岳道路と県道 364 号線の終点）の古間多町交差点に到着した（北信五岳道路走破）。＜2021.4.27 県道 364 号線（古間停車場線）を古間駅から、北に 200m 走り、県道 360 号線と分岐して 400m 程西に走り、北信五岳道路に出て（県道 364 号線走破）、この日は、吹野交差点を右折して北上し、県道 361 号線などを通り長野方面に進んだ。＞2024.10.22 古間多町交差点を突っ切るとすぐ、旧北国街道と交わる、その角一帯に酒銘柄「松尾」の高橋助作酒造店があり、寄って話（山恵錦の出来や北国街道など）をしながら酒を選んだ。そこを起点にして南に行けるだけ北国街道を走り、戻って来てから北にいき、古間宿で車を止めて雰囲気を味わった。

国道 18 号線に出て、小林一茶宅（前は国道沿いにあった）付近を通過し、柏原交差点を左折し、県道 363 号線（黒姫停車場線）に入り、黒姫駅まで走った（県道 363 号線走破）。この日は信濃町の友人宅に寄り、コーヒーを頂き、信濃町インターから帰宅した。

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１１１

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　2024.10.30

裏木曽街道（岐阜県）から真弓峠を目指す（県道486号）

澤田　繁　著

（長野県道/岐阜県道 486 号走破）

2023.3.14 自宅から洗馬に行き国道 19 号線に入る。福島宿を過ぎ元橋交差点を右折し県道 20 号線に入る、三岳黒澤から県道 256 号線（第 4 集、NO.24）に入り王滝村の中心地を目指した。最初に県道 256 号線を走破し、次に長野県道/岐阜県道 486 号線（王滝加子母付知(つけち)線）を走破しに向かいました。

王滝村の中心地を起点とした県道 486 号線は、王滝川に沿って上流にすすむ、左手に貯木場があり、その先の道を左折し、真弓峠に向かう。真弓峠までは、営林署専用林道で一般車両は通行不可と聞いていたので、左折せずに奥に行って見ました。川沿いの道がつづき、開けた所に出て人家もあった。「水公園」としてちょっとした公園があり、その辺をぐるっと回って戻って来ました。ここで気になったのが、機関車の展示があった事です。後日調べると、通学列車「やまばと号」でした。＜明治 17 年 4 月設置以来幾多の変遷を経た、王滝小学校滝越分校は、昭和 34 年 4 月本校へ統合され、児童・生徒は、通学列車「やまばと号」により、森林鉄道路線、滝越―田島間 12km を約 1 時間の安全運転で通学することになりました。昔から親しまれた「やまばと号」も昭和 50 年 5 月森林鉄道の廃止により 16 年間の歴史を閉じたのです。機関車（AC40 型ディーゼル機関車)、客車（児童 32 人乗り鋼製客車）＞。

木曽谷の森林鉄道は、大正 2 年（1912 年）から始まり、上松駅を起点として多くの路線が引かれた。王滝線が王滝村田島まで開通したのが、大正 12 年（1922 年）で、滝越まで開通したのが、昭和 5 年（1930 年）であった。最初の機関車は「ボールドフィン蒸気機関車」で現在赤沢自然休養林にて 1 台保管されている。昭和 27 年頃から「ディーゼル機関車」になった。その後木材の輸送手段が車に置き換わり、昭和 50 年頃廃止された。

県道 486 号線のつづきを岐阜県側から走ろうと、中津川方面に行き、弥栄橋交差点から国道 256 号線（19 号線と分岐し単独）を走りましたが、時間も遅くなって来て、なかなか県道 486 号線の入口までたどりつけずに、椛(もみじ)の湖まで行き引き返し、中津川インターから帰宅しました。

2023.6.13＜県道 486 号線のつづき＞を、3 ケ月前には果たせなかったので、良く調べて出かけました。国道 19 号線の木曽路を走り、途中寝覚めの床により中津川市に着いた。3 ケ月前には国道 256 号線から行ったが、今回は、裏木曽街道の起点である、国道 257 号線との交点まで国道 19 号線を進んだ。起点手前にある小向井交差点を右折して国道 257 号線（裏木曽街道）の青木交差点までショートカットしてしまいました。この道は、2022 年 11 月に開通した「市道青木斧戸線」でした。青木交差点から**裏木曽街道**を走り始めました。木曽川までが駒場地区（明治 30 年まで駒場村）、木曽川を越えると苗木地区（明治 24 年から昭和 26 年まで苗木町）に入った。ここから付知川を上流に向かっていく事になる。**福岡**地区（昭和 41 年から平成 17 年まで福岡町・明治 22 年に**福岡**村・高山村・田瀬村が合併し福岡村に、更に明治30年下野村が加わった）を通過し、下野地区（明治30年まで下野村）の下野交差点で国道 256 号線と交わり重複区間（国道 256 号と 257 号の）を走る。田瀬地区（明治 22 年まで田瀬村）を通過し付知地区（明治 30 年から平成 17 年まで付知町）に入った。

裏木曽は、中津川市の加子母地区・付知地区・川上地区の通称で、長野県木曽地域とは阿寺山地（県境）を挟んで裏側（西側）にある地域ということから、こう呼ばれている。

付知峡口交差点から、お目当ての長野県道・岐阜県道 486 号線に入る。付知川沿いを更に上流に向かう、2 車線のセンターラインのある道は、不動滝（付知峡）に行く三差路まで続くが、そこからは幅員が狭くなった。渓谷の中腹をぬうように走り、「裏木曽古事の森」に着いた。ここから、山に登り「真弓峠」を目指すが、ゲートが有、一般車は通行できないので、ここで走破と見なした（県道 486 号走破）。

さらに付知川上流に行って見ました。狭い道は、舗装が切れて砂利道になり、引き返すタイミングを失っていた時に、「渡合温泉ランプの宿」があったので、そこで引き返しました。「裏木曽古事の森」の案内は以下の通り＜当裏木曽地域は、古くからの最高級木材である木曽ひのきの産地として全国に知られ、当地の木曽ひのきは、我が国を代表する木造建築物である、伊勢神宮・京都南禅寺・法隆寺・江戸城・名古屋城・姫路城などの歴史的建造物に使用されてきております。しかしながら、木曽ひのきは、長年の利用によりかなり減少してきており、我が国の文化の象徴ともいえる貴重な木造建築物を維持していくためには、優良な大径材の確保が今後の大きな課題になっています。このため、古くから木曽ひのきを産出してきた当地域において二百年から四百年の大径材の森づくりに取り組み、木の文化を未来に継承していくことを目標として、付知峡自然休養林内に古事の森を設定します。平成 16 年＞

付知峡口交差点に戻り、裏木曽街道を高山方面に向かい、加子母地区（明治 22 年から平成 17 年まで加子母村）から下呂市に入り、下呂温泉 3km 手前の国道 41 号との交点の裏街道終点まで来た。この日はこの後、高山市まで行き、安房トンネルを通り帰宅した。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm

清水高原(きよみずこうげん)歳時記（長野県道完走編）　　NO　道１１２

≪長野県山形村≫(やまがたむら)　　2024.10.30

旧豊科町周辺の県道と拾ケ堰

澤田　繁　著

（長野県道 57 号走破）（長野県道 310 号走破）（長野県道 314 号走破（長野県道 316 号走破）

2020.8.11 信大病院から、信大前の国道 143 号線を北に向かい岡田地区に出た。松本市街から長野方面にいく時に、松本 IC までが渋滞ぎみな時に、一つ先の安曇野 IC から乗るルートである。六助池を過ぎ、集落を一つ過ぎると、谷間を走る下りの道路になり、途中に「安曇野市」との境の表示がある。豊科町が合併前には、「豊科町」の表示であった。いつも、この表示を見て、豊科広いなあと思っていました。

県道 57 号線（安曇野インター堀金線）は、下りの途中の大口沢交差点の三差路から始まる。左折すると、すぐに「豊科温泉湯多里山の神」の日帰り温泉横を通る。この温泉、露天風呂もあり、気軽に紹介出来る温泉でもある。下って行って谷から抜けた所に国道 19 号線があり、田沢北交差点で交わり、国道 19 号線を田沢駅前まで重複してはしる。この辺りが豊科町田沢地区になり、昭和 30 年までは上川手村（明治 8 年田沢村と光村が合併して出来た村）だった。田沢駅前を右折して犀川を渡ると、工場の多い地域が高速道路までつづき、高速をくぐり安曇野インターに入った。この日は、長野方面に行き、大町から国道 147 号線で豊科に戻ってきました。拾ケ堰橋北交差点から**県道 316 号線**に入り立石交差点から**県道 315 号線**を使い帰宅した。

2021.9.28 県道 57 号線の残り部分を最初に目指す、自宅から県道 25 号線を北上し、田多井交差点から県道 57 号線を使い、安曇野インターから須坂長野東インターに向かった。旧堀金村（2005 年に安曇市）の三田(みた)地区を走り、旧堀金村烏川(からすがわ)地区に入り、「拾ケ堰」を渡ると堀金交差点に到達した。ここを右折し200mのところに、「道の駅ｱﾙﾌﾟｽ安曇野ほりがねの里」があり、農産物直売と食堂があり、よく利用している。今はあるかわからないが、食堂の名物として「常念天丼」（まさに山盛）を良く食べた。今日は、寄り道せず直進して「万水川」を渡り旧豊科町に入り、旧呉羽紡績豊科工場（父がひところ務めていた会社、一度遊びに来た記憶がある）の横を通り、大糸線の陸橋を渡り、成相・吉野北・見岳町交差点を通り、安曇野インターに着いた（県道 57 号線走破)。

県道 314 号線（田多井中萱豊科線)、県道 25 号線の田多井交差点の南約 500m に、県道 314 号線の起点になる三差路（信号がない上、表示もない）がある。ここから大糸線中萱駅を目指す路線である。旧堀金村三田地区を走り、「拾ケ堰」を渡ると、旧三郷村温(ゆたか)・明盛地区に入り中萱駅横に到着。ここから線路を渡り、県道 316 号線（旧国道）の立石交差点まで伸びている（県道 314 号線走破)。

県道 316 号線（梓橋田沢停車場線の現在の路線は、大糸線「梓橋駅」を起点にして、旧国道 147 号線（2011 年に国道指定解除）を北上し、拾ケ堰(じっかせぎ)橋北交差点で国道 147 線（高家(たきべ)バイパスが国道になる）と南中学校南交差点まで重複する。県道 316 号線は国道 147 号線と分岐し、こども病院横を通り、安曇野インター西交差点で県道 57 号線と交わり、終点の篠ノ井線「田沢駅」まで県道 57 号線と重複している。県道 316 号線は、たびたび部分的に走っている路線である（県道 316 号線走破)。梓橋駅は、昭和 30 年までは高家村（明治 7 年に熊倉・飯田・小海渡・真々部・中曽根村が合併して出来た村）の南端の真々部地区にある。難読漢字の高家（たきべ）は知っていたが、場所がわからなかった。北側はここから梓川・犀川の左岸を県道 57 号までと、立石交差点の手前までである。県道 316 号線は、立石交差点付近から、豊科町鳥羽地区に入り、南中学校南交差点から安曇野インター西交差点までは、豊科町吉野と旧高家村の境界付近を走っている。

県道 310 号線（柏矢町田沢停車場線）は、田沢駅から安曇野インター交差点までは、県道 57 号線及び 316 号線と重複しており、安曇野インターからは右折して北上する。県道横の「スワンガーデン」は、安曇野インター（当初は豊科インター）開設とともにオープンしたショッピングモールで、結構利用している。安曇野スイス村横を通り、重柳交差点に到達する。ここを右折すると、大町方面へのオリンピック道路につながるので大町方面に行く時は、よく利用している。又交差点より 2.5km 先には「大王わさび農場」がある。このまま直進して、終点の柏矢町交差点までは 1.5km 程の道のりで国道 147 号線と交わる。途中に一度訪れた「あずみ野ガラス工房」が右側にあり、「万水川(よろずいかわ)」を渡る手前を左折して 200m 程行くと、「安曇野わさび田湧水群公園」と安曇野テニスリーグ（長く主催していた平日夜の大会）に使った事があるテニスコートがある（県道 310 号線走破)。

拾ケ堰(じっかせぎ)は奈良井川の取水口より、奈良井川沿いを国道 147 号線までいくと、ここから「拾ケ堰」に沿った自転車道（あづみ野やまびこ自転車道）が始まる。梓川を渡り（堰はかっては川を横切った：せき止め用の蛇篭(じゃかご)と水のクロス部分に牛枠(うしわく))、自転車道は旧堀金村の県道 57 号線と交わる付近まで専用道路として、県道 441 号（穂高松本塩尻自転車道）の一部でもある。江戸時代に作られた豊科周辺の堰は、勘左衛門堰（奈良井川から梓川を越えて高家方面）・矢原堰(やばらせき)（1654 年横堰としては最初、犀川から取水約 8.3km）・新田堰（1679 年）新堀堰（1861 年）などがある。安曇野の堰の中でも**拾ケ堰**は最大規模で、江戸時代後期の文化 13 年（1816）に開削された。幹線水路の延長は 15 キロメートル、ほぼ標高 570 メートルの等高線に沿って安曇野の中央部を貫いて流れ、**高低差は 5 メートル**ほどである。　開削は、10 カ村の農村の指導者によって立案され、工事は延べ 6 万人以上の農民が参加し、**約 3 カ月の短期間に工事**を終えるという、驚異的な事業だった。現在は、約 1,000 ヘクタールが灌漑（かんがい）され、安曇野の今日を築いた文化遺産である。また、農林水産省の「疎水百選」にも選ばれている。

歳時記ホームはこちら　http://www.go.tvm.ne.jp/~sawada/saijiki/saijikihome.htm